



ゆうメール

【発行人】株式会社バブル  
【配達先】〒510-8121  
三重県川越町高松30-1  
岡田かつや後援会事務所内  
バブル事務局

ニュース・レター | 2016 | vol. 37

# News Letter

衆議院議員  
民進党  
岡田かつや後援会会報

民主党そして民進党代表として全力投球した1年8カ月でした。政権交代可能な政治に向けて、党再生の基礎はできたと確信しています。この間、皆様からの厚いご支援は私にとって大きな支えでした。改めて御礼申し上げます。

今後は、運動代表ら執行部をサポートしながら、少し自由な立場から、日本そして世界が直面する大きな課題にじっくり取り組むとともに、地元においては、初当選前から続けている座談会など、皆様と直接お話する機会をさらに増やしていきたいと考えています。

政治家となって26年、私が確信していることは、地域で生きる普通の日本人の素晴らしさ



直球、健在。

です。自分だけではなく、今だけではなく、地域のこと、未来のことを深く考え、責任を果たそうという思いを持った多くの人たちとの出会いがありました。この素晴らしい人たちの良識がある限り、日本の未来は明るい、必ず困難を乗り越えることができる。私はそう思っています。

この原点を胸に、日本のため、将来世代のため、民進党が政権を担い得る政党となり、政権交代ある政治が実現するよう、全力投球していく決意です。引き続き、皆様のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

衆議院議員 岡田かつや

Overseas Report

## 海外レポート



11月上旬、中国を訪問しました。訪中の主な目的は、河南省信陽市の羅山県にある小学校を訪ねること。

2000年、私は、三重県と友好提携関係にある河南省のリーダーだった旧知の李克強さん(現中国首相)を訪ねました。その際、河南省の中で最も貧しい地域を視察したいと伝えてあったのです。紹介されたのが羅山県でした。

省都鄭州から、電車と車で6時間かかりました。行ってみると、確かに電気すらない寒村で、人々が厳しい生活をしていることが伝わってきました。特に、案内された小学校は建物が老朽化していることに加えて、黒板や机も何十年も使ってきた、いつ壊れても不思議ではないような状況でした。子どもたちを見ているうちに、何とかできないかという思いが募り、三重県に帰ってから寄付金集めをしました。

私や中川正春衆議院議員の後援会の皆さんや、鈴鹿の老人会が中心となって寄付された430万円で、新たな校舎に建て替えられたのです。

新しくなった学校を初めて訪問すると、校門の横に「中日友好小学校」と書かれています。「寄付者：民主党三重県連、鈴鹿市老人クラブ連合会、日本友好人士336人」と明記されたプレートもありました。子どもたちが勉強している教室を参観し、先生方と意見交換をしましたが、皆さんに歓迎され、ささやかながら日中



▲外交の最高責任者を務めた戴秉国前國務委員との会談

友好に役立つことができたことをうれしく思いました。当時寄付に応じていただいた皆さんには心から御礼申し上げます。

北京では旧知の人々と会ってきました。特に前國務委員として、胡錦濤主席時代に外交の最高責任者を務めた戴秉国さんとは、長時間話がはずみました。今は一線を退いていることもあって、野田政権時代の尖閣国有化など、かなり本音で率直に話すことができました。

今、日中関係は緊張が続いています。しかし両国関係の改善は、日中のみならず、アジア全体の平和と安定にとっても大事です。10年、20年先を視野に置いた日中関係をしっかりと再構築していく必要があると改めて認識しました。



▲16年前の訪問時、ボロボロだった黒板



▲1年生のクラス。かわいらしさの中に真剣さも



▲校門には「中日友好小学校」のプレートが

## 党務

### ●東日本大震災復旧・復興推進本部長として

10月から東日本大震災復旧・復興推進本部長に就任し、早速福島を訪ねました。

南相馬では鎮魂復興市民植樹祭に出席し、3万本の苗木を桜井市長や市民の皆さんと一緒に植樹しました。

その後、相馬双葉漁業組合、飯館村森林組合、飯坂温泉観光協会、連合福島の皆さんとも意見交換するなかで、取り組まなければならない課題がたくさんあることを改めて認識しました。

漁業関連施設の再建はほぼ終了していますが、風評被害もあり、実際に販売できているのは震災前の6%程度ということですから、漁業に関していうと現状復帰にはほど遠い。

森林組合の皆さんからは、森林、里山での除染作業を是非進めてほしいとの指摘がありました。除染費用が巨額なものとなるなかで、どういう仕組みで、どこまで除染するのかということこれから政治の場できちんと議論しなければなりません。

### ●政治改革推進本部長として

党の政治改革の責任者にもなりました。政治改革は政治に対する国民の信頼を取り戻すため重要なことで、



▲南相馬の植樹祭にて

大震災が発災したとき、私は与党幹事長として、被災地を回り、懸命に対応させていただきました。あれから間もなく6年。被災された皆さんの声に耳を傾けることから始め、本部長として、復興が実現するために、責任を果たしたいと思っています。

私が一貫して取り組んできたことです。党内にもいろんな意見がありますが、しっかりと結論を出していきます。

### ●日印議連でインドを訪問

会長代理を務めている日印友好議員連盟のメンバーで5人でインドを訪問しました。

旧知のモディ首相にお会いするなど、有意義な訪問になったと思います。今後も日本とインドとの関係を深める努力をしていきたいと考えています。



▲インドのモディ首相と会談

## 国会

### ●生前退位の問題

——全体の進め方、議論の範囲を確認

天皇陛下の生前退位の問題について、菅官房長官と内閣委員会で議論しました。特に、与野党できるだけ反対がない状態で法案を成立させるため、政府と国会の協力が必要だと強調しました。

まずは結論が急がれる生前退位の問題について次期通常国会で対応し、女性宮家などご公務の負担の問題はその後の国会でと、私は考えています。

## 地元



### ●子ども食堂

地元にも子ども食堂が増えてきました。そのうち桑名市の「わくわくフレンズ」と「太陽の家」の皆さんと意見交換をしました。子ども食堂の活動がさらに広がるといいですね。



### ●高校野球

地元いなべ総合学園の試合があり、甲子園まで応援に行きました。やはりテレビで観ると、地元の人と一緒に球場で応援するのとは臨場感が違います。



KATSUYA'S REPORT

## 活動報告

2015・12 ▼ 2016・11

## 外交



KATSUYA'S NOTE

### トランプ大統領の誕生が間近に迫っています。

政治、安全保障、経済、いずれの分野でも世界を主導してきた米国のリーダーにトランプ氏が就任することで、一体どのような変化がもたらされるのか、私自身も大きな関心を持って注視しています。

もちろん、選挙で勝つためのトランプ氏の過激な発言が、その通り実施されることはありません。共和党主流派とトランプ大統領との間で、政治的な妥協がなされ、政策の軌道修正がなされていくことは確実です。過度に心配する必要はないと思います。

しかし、米国大統領の権限は強大です。核兵器使用の可能性もあった、かつてのキューバ危機やアルカイダによる9.11テロ事件、リーマンショックなど、世界にとって重大な危機が発

生じた際に、ぎりぎりの状態で大きな決断をしなければならないのが米国大統領です。トランプ大統領のリーダーとしての資質が問われる場面が、必ず1度や2度はやってきます。その時に間違いない決断ができるのか、不安が残ります。

これからの10年、世界は激動の時代を迎えようとしています。グローバリズムが世界の人々を豊かにするとともに民主主義がより拡大するとの楽観論が勢いを失うなかで、トランプ大統領が誕生することになりました。世界のスーパーパワーである米国の地盤低下が決定的となり、10年後の世界は、今とは全く違ったものとなる可能性も否定できません。

本格的な人口減少、経済成長力の低下、

巨額の財政赤字など多くの問題を抱えた日本が、その課題を克服しつつ、世界の大きな変化に適切に対応するとともに、世界の平和と安定のために貢献できるのか。政治の果たすべき役割はますます大きくなっていると改めて感じています。



## 後援会通信

岡田かつやオフィシャルホームページ [www.katsuya.net](http://www.katsuya.net)

岡田かつやが日々取り組んでいる政治活動や政策に加え、海外出張の報告や地元での活動など、岡田かつやの日常が満載。ご意見も随時募集!

岡田かつや

検索



この会報は岡田かつや後援会ご入会の皆様及び関係企業・団体の皆様にお送りしています。お届けのご住所、お名前に誤りや変更がございましたら是非一報ください。また、ご家族や知人の方のこのような

### 個人献金のお知らせ!

岡田かつやの政治活動に賛同し、個人の立場で財政面からサポートしていただく方からの献金を随時お受けしています。詳細は、上記のホームページをご覧ください。

情報がありましたら名簿を訂正いたしますので、事務所まで(059-361-6633)ご連絡いただければ幸いです。

※会員のお名前、ご住所等の個人情報、個人情報保護法の趣旨に即して安全管理に努め、岡田かつや後援会活動に利用させていただきます。



# 岡田かつやが語る！ 代表としての1年8カ月

## 1 代表就任 党再生のカギは女性と地方

2012年12月に政権を失い、13年参院選、14年衆院選と党勢がどん底にあるなか、代表に選出されました。党の再生のためには、特に女性と地方がカギになると訴え、連舩代表代行、辻元清美役員室長、山尾志桜里政調会長など女性議員を登用しました。また、積極的に地方を回るなど、地方組織の立て直しに向けて全力投球しました。



▲2015年1月18日臨時党大会で代表に選出される

## 2 地方回り 現場主義が政治活動の原点

現場主義をモットーとする私にとって、地方回りは政治活動の原点とも言えるべきものです。代表在任中も、大震災の被災3県、熊本地震や北海道台風の被災地はもちろん、農業や地域の中小企業など数多くの現場を見て、直接お話を伺ってきました。また、県連や地方連合などの皆さんとも意見交換を重ねました。これからも折を見て、各地を回りたいと考えています。



▲倒壊した熊本市の石垣



▲熊本市内や益城町の被災現場などを視察



▲吹雪の中での街頭演説（青森県五所川原市）



▲きゅうり栽培農家で、農業者戸別所得補償制度について伺う（埼玉県加須市）

## 3 国会論戦 安倍総理と直接対決14回、議論は噛み合わない

党代表の最も重要な仕事の1つが国会論戦です。安倍総理とは、代表質問、党首討論、予算委員会、安保法制特別委員会などで計14回議論しました。私は単なる揚げ足取りにならないように、気をつけて議論したいつもりです。しかし議論は噛み合わない、物事が前進したという充足感を覚えることはほとんどありませんでした。毎月1回開催すると与野党で合意した党首討論が、1年8カ月で3回しか行われなかったことも極めて残念です。総理と野党第一党党首が正面から議論することは大切です。安倍総理にはもっと努力してもらいたいと思います。



▲2016年5月16日衆院予算委員会

## 4 共生社会 多様性を認め支え合う社会、成長と分配を両立する経済

民進党結党の理念でもある共生社会とは、1人ひとりがかげがえのない個人として尊重され、多様性を認めつつ互いに支え合い、共に生きる社会です。この理念を、私自身が党の共生社会創造本部長に就任し、党内議論を経て深めてきました。その中で、人への投資、公正な分配、格差



## 5 安保関連法 違憲の法律は違憲、新しい民主主義の芽生えも

集団的自衛権の行使を可能とする安全保障関連法は、特に大きな議論となりました。日本国憲法は集団的自衛権の行使を認めていないという、歴代内閣と国会が積み重ねてきた憲法解釈を、安倍政権は十分な議論もなく変え、国民の8割が説明不十分、半数以上が反対というなかで、法案成立を強行しました。しかし、憲法違反の法律は、いくら時



▲10万人が結集した市民団体の国会前集會に参加

▲「安倍政権の暴走にストップをかけよう」と全国各地で街頭演説を開催

## 6 民進党結党 政権交代ある政治へ、ラストチャンス

## 7 野党協力 巨大与党に対峙するため、できる限りの協力

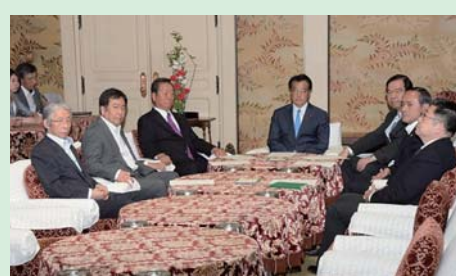
## 6 民進党結党 政権交代ある政治へ、ラストチャンス

巨大与党に対峙し、政権交代ある政治を実現するために、理念・政策に大きな違いのない維新の党と合流することは、代表就任以来、最重要課題の1つでした。党内外に慎重論もありましたが、いろいろな困難を乗り越えて、2016年3月、「自由」「共生」「未来への責任」を結党の理念とする民進党を発足させるとともに、初代の党代表に就任しました。この民進党が、政権交代ある政治の実現に向けたラストチャンスであるという強い決意のもと、皆が協力して素晴らしい党をつくろうと、結党大会で呼びかけました。



▲2016年3月27日民進党結党大会にて

## 7 野党協力 巨大与党に対峙するため、できる限りの協力



▲野党4党党首会談にて

政権交代ある政治の実現に向けたもう1つの柱が野党協力でした。安保関連法案の国会審議などを通じて培った信頼関係を基礎に野党協力を進め、7月の参院選では、32ある1人区すべての候補者一本化を実現しました。野党の候補者を絞り込む野党協力は、誰が代表となっても必要不可欠です。共産党との関係が注目されがちですが、理念・政策の異なる政党と政権を共にすることはないのは当然のこととして、これからも選挙や国会での連携は欠かせないと私は考えています。

## 8 7・10参院選 前回選挙から議席倍増、党再生の足がかりはできた

代表としての1年8カ月、その集大成が7月10日の参院選でした。「経済と暮らし」、「憲法と平和」を2大争点と位置付け、渾身の力で戦い抜きました。政権転落直後の前回（2013年）参院選に比べて議席を倍増させるなど、一定の成果を出せたと自負しています。



▲経済と暮らし、憲法と平和を訴え、全国各地の候補者の応援に



▲最激戦区・三重で、芝ひろかずさんの応援

## 9 代表退任 やるべきことは成し遂げた！

9月の任期満了を控え、次の代表選に出ないことを明らかにしました。実は民主党時代を通して、代表は任期途中で退陣しており、任期満了による代表退任は珍しいのです。リーダーの出处退任は大事です。やるべきことはやったという思いの中で、連舩さんに後を託しました。これからも、政権交代ある政治の実現を目指して、全力投球していきます。

## 私の近況

代表を退き一番変わったのが、過密なスケジュールに追われることなく、自由な時間ができたことです。地元もほぼ毎週帰っていますが、座談会や街頭演説会、企業訪問などで多くの方々と率直に意見交換できることは、私にとって大きな楽しみです。地元を通して、日本を取り巻く様々な問題をしっかりと把握したいと思います。東京では、毎日持ち歩くカバンを負担が少ないリュックサックスタイルのものに変えました。代表のときのように警護付きで移動するのではなく、基本的には1人で移動できま

す。専用車もないのでタクシー移動が多いのですが、地下鉄を使ったり、歩いたりして移動することも増え、健康的な生活を送っています。歩くことで、季節の移り変わりや、人々の生活をより身近に感じています。あまりにも忙しすぎたなかで、十分に時間をかけることができなかったより本質的なこと、すなわち、民進党そして日本再生のための、しっかりとした構想を練りたいと考えています。

